

## 2019年度LCA日本フォーラム総会資料

- 第1号議案 平成30年度活動報告書 . . . . . 資料1
- 第2号議案 平成30年度収支決算書 . . . . . 資料2
- 第3号議案 2019年度活動計画書 . . . . . 資料3
- 第4号議案 2019年度収支予算書 . . . . . 資料4
- 第5号議案 LCA日本フォーラム役員の選任 . . . . . 資料5

参考資料1 2019年度 専門委員会名簿

参考資料2 LCA日本フォーラム規約

2019年6月11日

13時00分～13時50分

於：31Builedge 霞が関プラザホール（霞が関）

L C A 日 本 フ ォ ー ラ ム  
事務局：一般社団法人産業環境管理協会

## 平成30年度活動報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

### 1. 会議関係活動

#### 1-1. 総会

◇平成30年 8月2日 於 イイノホール(霞が関)

平成29年度活動報告書(案)、平成29年度収支決算書(案)、平成30年度活動計画書(案)及び平成30年度収支予算書(案)を審議し承認した。

<平成30年度役員(敬称略)>

- |         |       |  |
|---------|-------|--|
| 1. 会長:  | 山本 良一 | 東京大学 名誉教授  |
| 2. 副会長: | 稲葉 敦  | 工学院大学 先進工学部 教授   |
|         | 足立 芳寛 | 東京工科大学 客員教授  |
|         | 古賀 剛志 | 特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構 理事  |
|         | 飯田 祐二 | 経済産業省 産業技術環境局長   |
|         | 寺師 茂樹 | 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会委員長<br>トヨタ自動車株式会社 取締役・副社長                        |
|         | 曾谷 保博 | 一般社団法人日本鉄鋼連盟<br>環境・エネルギー政策委員会 委員長<br>JFEスチール株式会社 代表取締役 副社長           |
|         | 三浦 啓一 | 一般社団法人日本経済団体連合会<br>環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部 部会長代行<br>太平洋セメント株式会社 取締役常務執行役員 |
| 3. 監事:  | 細川 浩之 | 一般社団法人セメント協会 生産・環境部門 リーダー  |
|         | 望月 規弘 | キヤノン株式会社 環境統括センター 主席   |

#### 1-2. 運営委員会

1回開催し、総会付議事項を審議、承認した。

◇第1回 平成30年 6月18日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席: 委員 18名、事務局 3名

議案: ・ 総会付議事項について(審議)

平成29年度活動実績報告書(案)、平成29年度収支決算書(案)、平成30年度活動計画書(案)及び平成30年度収支予算書(案)を審議、承認した。

・ The Global LCA Data Access(GLAD) Network への対応

・ 各専門委員会、セミナー、研究会、LCA研修等の活動について(報告)

#### 1-3. LCA/DB委員会

1回開催し、LCA日本フォーラムデータベース活用状況の確認と「平成27年度データベース整備事業」を受けての継続作業について報告、検討した。

◇第1回 平成30年 6月12日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席: 委員 12名、オブザーバー 2名、事務局 3名

議案: ・ 平成29年度データベース整備事業(継続)について

・ 国際LCA データベースネットワーク活動状況とJLCA-DBの対応

・ 平成29年度JLCA データベース利用・更新実績について

#### 1-4. 情報企画委員会

2回開催し、セミナー開催、ニュースレター発行計画及び情報発信等の普及活動について検討した。

◇第1回 平成30年 6月13日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 7名、事務局 3名

議案：・平成30年度セミナー開催計画  
・平成30年度ニュースレター発行計画  
・情報発信、普及活動について

◇第2回 平成31年 2月8日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 9名、事務局 3名

議案：・平成30年度セミナー実績報告  
・平成30年度ニュースレター実績報告  
・情報発信、普及活動について

#### 1-5. LCA日本フォーラム表彰選考委員会

「平成30年度 第15回LCA日本フォーラム表彰」に関する各賞の最終選考を行った。

◇平成31年 1月10日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 8名、オブザーバー 2名、事務局 2名

議題：・表彰選考WGによる事前審査結果について審議  
・第15回LCA日本フォーラム表彰の最終選考決定について

#### 1-6. LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

2回開催し、「平成30年度第15回LCA日本フォーラム表彰」に関する募集要項を検討し、応募申請内容の事前審査を行い、その結果をLCA日本フォーラム表彰選考委員会に提出した。

◇第1回 平成30年 8月1日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 7名、事務局 2名

議案：・平成29年度第14回LCA日本フォーラム表彰の総括(報告)  
・平成30年度第15回LCA日本フォーラム表彰の概要(検討)

◇第2回 平成30年12月18日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 7名、事務局 2名

議案：・平成30年度第15回LCA日本フォーラム表彰の一次審査について

◇事前審査 委員 7名

## 2. JLCAデータベース管理活動

### 2-1. データベース運用実績

ログイン実績		2,246 件 (前年 2,135 件)
ページ閲覧実績	工業会データ	2,966 件 (前年 2,248 件)
	連結データ	738 件 (前年 1,500 件)

### 2-2. データ新規追加・更新状況

#### ■2018年度1版 (2018/4/1-2018/6/30)

#### ◆セメント協会のインベントリデータを3件更新

- 1 フライアッシュセメントB種製造
- 2 ポルトランドセメント製造
- 3 高炉セメントB種製造

#### ◆炭素繊維協会のインベントリデータを1件更新

- 1 PAN系炭素繊維の製造(全工程:Cradle to gate)

#### ◆一般社団法人日本鉄鋼連盟のインベントリデータを16件更新

- 1 UOパイプの製造
- 2 テンフリー鋼板の製造
- 3 ブリキ鋼板の製造
- 4 形鋼の製造
- 5 厚板の製造
- 6 酸洗鋼板の製造
- 7 焼鈍鋼板の製造
- 8 線材の製造
- 9 電気亜鉛メッキ鋼板の製造
- 10 電縫管の製造
- 11 塗装鋼板の製造
- 12 特殊鋼の製造
- 13 熱延鋼板の製造
- 14 棒鋼の製造
- 15 溶融亜鉛メッキ鋼板の製造
- 16 冷延鋼板の製造

◆一般社団法人日本電線工業会のインベントリデータを31件更新

- 1 巻線 1種ポリエステルイミド-ポリアミドイミド銅線 1EIW-AI 1C×0.3MM
- 2 巻線 1種ポリエステルイミド-ポリアミドイミド銅線 1EIW-AI 1C×0.8MM
- 3 巻線 1種ポリエステルイミド-ポリアミドイミド銅線 1EIW-AI 1C×1.6MM
- 4 巻線 1種ポリエステル銅線 1-PEW 1C×0.3MM
- 5 巻線 1種ポリエステル銅線 1-PEW 1C×0.8MM
- 6 巻線 1種ポリエステル銅線 1-PEW 1C×1.6MM
- 7 高圧電力ケーブル 22KVCV ケーブルトリプレックス 22KV CVT 3C×60MM<sup>2</sup>
- 8 高圧電力ケーブル 22KVCV ケーブルトリプレックス 22KV CVT 3C×250MM<sup>2</sup>
- 9 高圧電力ケーブル 22KVCV ケーブルトリプレックス 22KV CVT 3C×500MM<sup>2</sup>
- 10 高圧電力ケーブル 66KV 遮水層付 CV ケーブルトリプレックス 66KV CVTSS 3C×150MM<sup>2</sup>
- 11 高圧電力ケーブル 66KV 遮水層付 CV ケーブルトリプレックス 66KV CVTSS 3C×325MM<sup>2</sup>
- 12 高圧電力ケーブル 77KV 遮水層付 CV ケーブルトリプレックス 77KV CVTSS 3C×250MM<sup>2</sup>
- 13 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル
- 14 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル
- 15 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル
- 16 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 600V CVT 3C×38MM<sup>2</sup>
- 17 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 600V CVT 3C×38MM<sup>2</sup>
- 18 低圧電力ケーブル 600V 単心より合せ形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 600V CVT 3C×100MM<sup>2</sup>
- 19 高圧電力ケーブル 6600V トリプレックス形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 6600V CVT 3C×22MM<sup>2</sup>
- 20 高圧電力ケーブル 6600V トリプレックス形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 6600V CVT3C×200MM<sup>2</sup>
- 21 高圧電力ケーブル 6600V トリプレックス形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル 6600V CVT3C×200MM<sup>2</sup>
- 22 制御用ケーブル 制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル CVV 2C×2MM<sup>2</sup>
- 23 制御用ケーブル 制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル CVV 4C×2MM<sup>2</sup>
- 24 制御用ケーブル 制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル CVV 7C×2MM<sup>2</sup>
- 25 制御用ケーブル 制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル CVV 15C×2MM<sup>2</sup>
- 26 制御用ケーブル 制御用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル EM-CEE/F 2C×2MM<sup>2</sup>
- 27 制御用ケーブル 制御用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル EM-CEE/F 4C×2MM<sup>2</sup>
- 28 制御用ケーブル 制御用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル EM-CEE/F 7C×2MM<sup>2</sup>
- 29 制御用ケーブル 制御用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル EM-CEE/F 15C×2MM<sup>2</sup>
- 30 機器用電線 UL1007 80℃耐熱PVC電線 UL1007 1C×20AWG
- 31 機器用電線 UL1430 105℃耐熱架橋PVC電線 UL1430 1C×20AWG

※日本電線工業会のデータは電線総合技術センター名義で登録していたデータの更新版になります。

### 2-3. 「データベース整備事業」継続

LCA日本フォーラムでは、「平成27年度データベース整備事業」が実施され、工業会データとIDEAとの上流連結作業を行った「LCA連結データ」を整備し、平成28年度に公開(会員限定)した。「LCA連結データ」は、工業会等から提供されている「インベントリ分析用データベース(工業会データ)」に、IDEA Ver.2.(H29.10)を連結計上した、プロセス合算型(Cradle-to-Gate)データとなっている。工業会データを見直し「LCA連結データ」の公開を行う意思のある工業会に向け、連結作業を円滑に進めるための支援事業を継続実施した。

#### ■LCA連結データ公開(2019年3月) 「Cradle to Gate」のインベントリデータ (241品目)

1. 日本化学工業協会
2. 日本自動車部品工業会
3. 日本ガス協会
4. 情報通信ネットワーク産業協会
5. 日本アルミニウム協会
6. 日本建設業連合会(H30年度更新)
7. 日本電機工業会
8. 日本製紙連合会
9. 日本産業・医療ガス協会
10. プラスチック循環利用協会
11. 日本ゴム工業会
12. エンプラ技術連合会
13. 日本ソーダ工業会
14. 合成樹脂工業会
15. 全国段ボール工業組合連合会
16. カーボンブラック協会
17. 塩ビ工業・環境協会
18. 電子情報技術産業協会(H30年度一部修正)
19. 日本電線工業(H30年度新規公開)
20. 日本壁装協会(H30年度新規公開)
21. 炭素繊維協会(H30年度新規公開)

### 3. 研究会・研修活動

#### 3-1. 「LIME3活用検討」研究会

◇「LIME3活用検討」WGメンバー

委員長 稲葉 敦(工学院大学 先進工学部 教授)

副委員長 伊坪徳宏(東京都市大学 環境学部 教授)

委員 本下晶晴(国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)

WGメンバー 株式会社 資生堂 積水化学工業株式会社  
TOTO株式会社 太平洋セメント株式会社  
サンメッセ株式会社 TCO2株式会社  
日産自動車株式会社

◇「LIME3活用検討」研究会 実施内容

環境影響評価手法 LIME3の利用方法の解説、指導、事例研究の解釈と考察を進めた。

第10回 平成30年 5月 10日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第11回 平成30年 7月27日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第12回 平成30年 9月12日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第13回 平成30年 11月21日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第14回 平成31年 1月9日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第15回 平成31年 2月 7日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第16回 平成31年 3月26日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

#### 3-2. 「容器包装の環境効率」研究会

◇「容器包装の環境効率」WGメンバー

委員長 平尾雅彦(東京大学大学院 工学系研究科 教授)

委員 中谷 隼(東京大学大学院 工学系研究科 講師)

アドバイザー 田崎智宏(国立研究開発法人国立環境研究所 循環型社会システム研究室 室長)

WGメンバー 東洋製罐株式会社 株式会社エフピコ  
大日本印刷株式会社 レンゴー株式会社  
凸版印刷株式会社 サッポロビール株式会社  
三笠産業株式会社 三井化学株式会社

オブザーバー 一般社団法人プラスチック循環利用協会

◇「容器包装の環境効率」研究会 実施内容

機能性評価指標の検討を行い、容器包装の環境効率手法の確立を目指した。

第24回 平成30年 4月 13日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

◇研究会終了に伴い、公開報告会(第2期)を開催した。

開催日時： 平成30年 4月26日(木) 15:00-17:20

開催場所： TKP神田駅前ビジネスセンター ルーム5C (産業環境管理協会 同ビル5階)

主催： LCA日本フォーラム

参加者： 21名

## 【プログラム】(敬称略)

15:00 開会挨拶

「容器包装の環境効率」研究会 委員長／東京大学大学院工学系研究科 教授 平尾 雅彦

15:05 「容器包装環境効率研究会」目的と内容

「容器包装の環境効率」研究会 副委員長／東京大学大学院工学系研究科 講師 中谷 隼

### ■評価事例報告

15:20 東洋製罐株式会社 「把手付ペットボトルの評価事例」

東洋製罐株式会社 環境部 家木敏秀

15:35 凸版印刷株式会社 「レトルトパウチの評価事例」

凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部事業戦略本部 中川善博

15:50 レンゴー株式会社 「段ボールの形態変更による軽量化の評価事例」

レンゴー株式会社 環境安全衛生部 環境課 山下 毅

16:05 サッポロビール株式会社 「炭酸アルコール飲料用アルミ缶とガラスびんの評価事例」

サッポロビール株式会社 パッケージング技術開発センター 門奈哲也

16:20 大日本印刷株式会社 「米飯包装の評価事例」

大日本印刷株式会社 包装事業部 柴田あゆみ

16:30 三笠産業株式会社 「プラスチック製調味料用キャップの評価事例」

三笠産業株式会社 環境保証部 遠藤明子

16:40 三井化学株式会社 「素材における新規機能項目の追加の可能性

～軟質包装材用接着剤の事例～

三井化学株式会社 RC・品質保証部 深谷将世

### ■評価ソールの報告

16:50 評価ソールの説明

東京大学大学院工学系研究科 横川直毅

17:00 質疑応答

## 3-3. 「SDGs とICT」研究会

◇「SDGs とICT」WGメンバー

委員長 松野 泰也(千葉大学大学院工学研究院 都市環境システムコース 教授)

副委員長 並河 治(株式会社日立製作所)

折口 壮志(東日本電信電話株式会社)

◇WG メンバー

株式会社東芝

日本電気株式会社

富士通株式会社

日本電信電話株式会社

株式会社エックス都市研究所

富士ゼロックス株式会社

三菱電機株式会社

株式会社日立製作所

日産自動車株式会社

キヤノン株式会社

◇「SDGs とICT」研究会 実施内容

SDGs への取組において ICT の効果的な活用と課題点を事例と共に整理し、LCA の活用方法を検討した。

第1回 平成30年 12月19日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第2回 平成31年 3月 8日 於 NTT 武蔵野研究開発センタ



### 3-4. JLCA-LCA研修

LCA研修(入門コース)を3会場にて2回(前期、後期)実施した。

#### ◇東京会場

日時① 平成30年7月26日 参加者: 33名  
日時② 平成30年11月7日 参加者: 15名  
運営・講師: 産業環境管理協会(LCA日本フォーラム事務局)  
場所: TKP 神田駅前ビジネスセンター

#### ◇名古屋会場

日時① 平成30年6月13日 参加者: 6名  
日時② 平成30年10月4日 参加者: 4名  
運営・講師: 株式会社フルハシ環境総合研究所  
場所: 名古屋都市センター(名古屋市)

#### ◇大阪会場

日時① 平成30年7月5日 参加者: 3名  
日時② 平成30年10月26日 参加者: 4名  
運営・講師: 特定非営利活動法人資源リサイクルシステムセンター  
場所: 麻綱ビル(大阪市)

## 4. 普及・情報交流活動

### 4-1. LCA日本フォーラムセミナー開催

LCA日本フォーラムが主催のセミナーを6回開催し、4件のイベントに協力した。

#### ① 平成30年度 LCA 日本フォーラム・日本LCA 学会共催セミナー

日時: 平成30年5月14日

場所: 學士会館 2F 202号室

参加: 120名(フォーラム会員、講演者、関係者、他)

内容: 環境マネジメントに関する国際規格、海外の動向

#### ■ 国際規格/海外動向

「欧州環境フットプリント/LCA国際データベース協調枠組み(GLAD)の最新動向について」

経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 環境経済室 係長 桐原 貴大

「SBT(企業版2°C目標)等を通じたバリューチェーン全体のCO2削減」

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 課長補佐 飯野 暁

「ISO/TC207/SC1: 環境マネジメントにおける貨幣価値評価の影響とは」

関西大学 商学部 教授 中寫 道靖

「ISO/TC207/SC7: 温室効果ガスマネジメント」

一般社団法人日本エネルギー経済研究所 研究理事 工藤 拓毅

「IEC/TC111: 電気電子製品及びシステムの環境配慮」

一般社団法人日本電機工業会 環境部 担当次長 齋藤 潔

#### ■ LCA日本フォーラム 海外調査報告

国際会議参加報告「World Resources Forum 2017」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員 畑山 博樹

国際会議参加報告「米国LCA学会/World Forum on Natural Capital」

一般社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター 佐伯 順子

② 平成30年度LCA日本フォーラム総会記念セミナー

日時： 平成30年8月2日

場所： イノホール&カンファレンスセンター 4F ルームB

参加： 100名(フォーラム会員、講演者、関係者、他)

内容： テーマ「工業会インベントリデータとその活用」

特別講演「地球温暖化による南極氷床、グリーンランド氷床の急激な損失と

ダイベストメント運動の世界的高まり」

LCA日本フォーラム 会長/東京大学 名誉教授 山本 良一

基調講演「素材産業の強みとさらなる高みに向けて」

経済産業省 製造産業局 素材産業課長 湯本 啓市

基調講演「循環型社会におけるLCA それでも地球(素材)は回っている」

千葉大学 大学院工学研究院 都市環境システムコース 教授 松野 泰也

「鉄鋼のリサイクルを考慮したライフサイクルインベントリ」

一般社団法人日本鉄鋼連盟 技術政策委員会

LCA検討WG 主査(新日鐵住金) 磯原 豊司雄

「セメント産業におけるLCIデータの概要について」

一般社団法人セメント協会 生産・環境部門 青木 尚樹

「日本壁装協会のLCA活動と壁紙データベースの活用方法」

一般社団法人日本壁装協会 業務部 松井 隆博

③ 平成30年度LCA日本フォーラム主催 座談会

日時： 平成30年9月28日

場所： 一般社団法人産業環境管理協会 6階 AB会議室

参加： 30名(フォーラム会員、講演者、関係者、他)

内容： テーマ「海洋プラスチックごみとマイクロプラスチック」

〈講演、質疑応答〉

講演者： 東京都市大学 教授 伊坪 徳宏

東洋大学 教授 柏田 祥策

〈パネルディスカッション〉

座長： 東京都市大学 教授 伊坪 徳宏

④ 平成30年度特別セミナー

日時： 平成30年11月8日

場所： 工学院大学 新宿校舎8F A-0811

参加： 170名(フォーラム会員、関係者、他)

内容： テーマ「ゼロエミッションからネガティブエミッションへ」

Session 1; 世界的な動向-何がどれだけ必要か?

1. エネルギーモデルの中でのNETsの量的な必要性

エネルギー総合工学研究所 黒沢 厚志

2. バイオマスのCCS BECCS

電力中央研究所 山本 博巳

3. 気候工学(ジオエンジニアリング)

東京大学 杉山 昌広

Session2; 日本での活動-我々ができること

4. カーボンマイナスプロジェクト(バイオ炭CCSと環境保全野菜クルベジ)

立命館大学 柴田 晃

5. 乾燥地植林及び沿岸生態系修復によるCO2固定

工学院大学 酒井 裕司

Session3; 政府の取組み

6. 国内および海外のCCSの動向と今後の課題

経済産業省 産業技術環境局 地球環境連携室長 川口 征洋

7. 地球温暖化対策としてのCCSと環境省のCCS事業

環境省 地球環境局 地球温暖化対策事業室長 相澤 寛史

総合討論とまとめ

世界の議論の方向～ネガティブCO2エミッション国際会議出張報告

産業環境管理協会 佐伯 順子

パネルディスカッション

モデレーター: 日本大学 生物資源科学部 教授 水谷 広

⑤ 平成30年度LCA日本フォーラム・セミナー

日時: 平成31年1月17日

場所: 大手町ファーストスクエアカンファレンス RoomA

参加: 90名(フォーラム会員、関係者、他)

内容: テーマ「建築物の環境価値とライフサイクルアプローチ」

講演1 「ZEH、LCCM住宅の普及促進等に関わる取り組み」

国土交通省 住宅局住宅生産課 建築環境企画室 課長補佐 川田 昌樹

講演2 「住宅・建築物のライフサイクルアプローチ、健康、および、知的生産性向上のコベネフィット」

慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科 教授 伊香賀 俊治

講演3 「建築分野での活用実態を踏まえたデータベース等の改善」

県立広島大学 生命環境学部 環境科学科 准教授 小林 謙介

講演4 「環境不動産の付加価値とその可能性」

三井住友信託銀行株式会社 不動産コンサルティング部 環境不動産担当部長 伊藤 雅人

講演5 「脱炭素時代に向けたナイスグループの取り組み(木材・ZEH等)」

ナイス株式会社 経営推進本部コーポレートコミュニケーション室長 宮川 敦

講演6 「前田建設工業株式会社のLCAへの取り組み」

前田建設工業株式会社 調達部土木グループ リーダー 林 昌明

講演7 「建材メーカーのLCAへの取り組み」

YKK AP株式会社 安全環境管理部 環境管理室長 松田 俊一

⑥ LCAフォーラム表彰「平成30年度第15回LCA日本フォーラム表彰記念講演」

日時: 平成31年2月28日

場所: イノホール 「Room A」

参加: 120名(フォーラム会員、受賞者、関係者、他)

内容: 第15回LCA日本フォーラム表彰受賞者 (5. LCA日本フォーラム表彰参照)

## 【共催・後援イベント】

◇第24回日本LCA学会/LCA日本フォーラム共催

テーマ：「サービス価値と持続可能性」

日時：平成30年7月20日

場所：ビジョンセンター東京有楽町 B+C 会議室

主催：日本LCA学会+LCA日本フォーラム

共催：サービス学会

参加：90名(講演者、関係者含む)

◇ワークショップ「グローバルバリューチェーンでの温室効果ガスの削減貢献量の算定」

日時：平成30年12月5日

場所：TKP 神田駅前ビジネスセンター カンファレンスルーム 5C

主催：日本LCA学会 環境負荷削減貢献量評価手法研究会

共催：LCA日本フォーラム

参加：35名(ISO/TC207/SC5/WG12及びTG1専門家、研究会メンバー、METI、経団連含む)

◇講演と討論会「温室効果ガスの削減貢献量」

日時：平成31年2月14日

場所：工学院大学新宿キャンパス 5階 A-0514教室

主催：日本LCA学会 共催：LCA日本フォーラム

後援：経済産業省/一般社団法人 日本経済団体連合会

参加：100名(講演者、関係者含む)

◇経済産業省 ワークショップ「LCAの政策活用に関する最新動向－欧州環境フットプリント/  
LCA国際データベース協調枠組み(GLAD)と環境ラベルの活用－」

日時：平成31年 2月19日 場所：全日通霞が関ビル 8階 大会議室B

主催：経済産業省 後援：LCA日本フォーラム、日本LCA学会

運営：みずほ情報総研株式会社

参加：100名(講演者、関係者含む)

## 4-2. JLCAニュースレター発行

下記のとおりニュースレターを発行(ホームページ掲載)した。

◇第74号：平成31年 3月 (特集 第15回LCA日本フォーラム表彰 1)

◇第75号：平成31年 3月 (特集 第15回LCA日本フォーラム表彰 2)

◇第76号：平成31年 3月 (特集 第15回LCA日本フォーラム表彰 3)

(5. LCA日本フォーラム表彰参照)

## 4-3. ホームページ 情報更新、普及活動

◇コンテンツの情報更新

・JLCAデータベース：データ新規追加・更新状況

・LCA日本フォーラム表彰、セミナー、LCA研修等の募集、開催案内、開催報告

◇メール情報配信 20件

LCA、環境効率関連のニュース、フォーラム主催イベント、その他関連情報を、会員に対して発信した。

## 5. LCA日本フォーラム表彰

LCA、環境効率に係わる優れた活動を表彰する「第15回LCA日本フォーラム表彰」が実施され、「経済産業省産業技術環境局長賞」、「会長賞」、「奨励賞」、「功労賞」を、下記の通り表彰した。

### ■平成30年度 第15回LCA日本フォーラム表彰

部門	受賞者	活動の名称
<b>経済産業省産業技術環境局長賞</b>		
研究・教育・普及	一般社団法人日本鉄鋼連盟	「鉄鋼製品の LCI 計算法の国際標準化と同計算法に基づく LCI データベースの整備および普及活動」
<b>LCA日本フォーラム会長賞(2件)</b>		
研究・教育・普及	欧州環境フットプリント IT 機器パイロット テスト事務局	「欧州環境フットプリント IT 機器パイロットテスト」
研究・教育・普及	東京都市大学 伊坪徳宏／農業・食品 産業技術総合研究機構 湯龍龍／京都 大学 村上佳世／産業技術総合研究 所 本下晶晴／パシフィックコンサルタ ンツ 井伊亮太・松田健士／三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 山口和子 ／工学院大学 稲葉敦	「グローバルスケールの環境影響を評価する手法 「LIME3」の開発」
<b>LCA日本フォーラム奨励賞(7件)</b>		
研究・教育・普及	太平洋セメント株式会社／ 国立大学法人広島大学／ 株式会社クヤマ	「多様な環境側面を考慮したセメントのLCA」
環境 経営	前田建設工業株式会社	「建設物のLCA評価の取り組み ～ICIラボ エクスチェンジ棟の事例～」
研究・教育・普及	一般社団法人日本サッシ協会	「窓・サッシのライフサイクルにおける環境負荷算定基準の策定活動」
環境 コミュニ ケーション	日本ドラム缶更生工業会	「日本ドラム缶更生工業会の循環型社会の構築に向けたLCI実施報告書の活用」
環 境 経 営	東芝エレベータ株式会社	「エレベーターのライフサイクル評価と活用」
研究・教育・普及	特定非営利活動法人 横浜 LCA 環境教育研究会	「LCT を取り入れた環境教育の普及活動」
環境 コミュニ ケーション	大阪ガス株式会社	「Daigas グループの都市ガス・電力事業におけるCO2削減貢献量の算定・開示」
<b>功労賞(1件)</b>		
研究・教育・普及	石谷 久(東京大学 名誉教授)	

## 6. 国際対応活動

海外動向調査として以下の国際会議へ専門家を派遣した。

◇国際会議 「1st International Conference on Negative CO2 Emissions」

日時：平成30年5月20日～5月26日

場所：GOTHENBURG, SWEDEN

主催：International Conference on Negative CO2 Emissions

派遣者 一般社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター 佐伯順子

◇国際会議 「The Pellston workshop on environmental indicators guidance」

日時：平成30年6月24日～29日

場所：Parador El Saler, Valencia, Spain

主催：UN Environment/SETAC

派遣者 国立研究開発法人産業技術総合研究所  
エネルギー・環境領域研究戦略部 研究企画室 主任研究員 本下晶晴

## 平成30年度LCA日本フォーラム収支決算（案）

1 一般事業収支					(単位：円)
	科目	H30年度 予算額	H30年度 決算額	比較増減	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
1	会費	13,984,000	14,031,000	47,000	@ 100,000 円× 18 工業会Ⅰ = 1,800,000 @ 400,000 円× 2 工業会Ⅱ = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会Ⅲ = 600,000 @ 30,000 円× 19 工業会Ⅳ = 570,000 @ 80,000 円× 3 団体 = 240,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 81 優先企業A = 4,050,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 26 一般企業A = 2,080,000 @ 50,000 円× 13 一般企業B = 650,000 @ 30,000 円× 47 一般企業C = 1,410,000 @ 30,000 円× 42 大学等 = 1,260,000 @ 13,000 円× 28 個人 = 364,000 @ 7,000 円× 11 LCA学会会員 = 77,000
	特別DB利用料				
2	セミナー参加費	50,000	14,000	△ 36,000	
3	雑収入	0	157	157	利息等
<b>当期収入合計(A)</b>		<b>14,034,000</b>	<b>14,045,157</b>	<b>11,157</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
1	委員会関係費	350,000	298,059	△ 51,941	委員謝金 60,000 委員旅費 50,120 会場費・会議費 187,939
2	研究会活動費	3,000,000	2,898,424	△ 101,576	研究会活動費 ・「容器包装の環境効率」研究会 446,813 ・「LIME3」研究会 353,964 ・「SDGsとICT」研究会 66,724 JLCA-LCA研修事業費 2,030,923
3	システム維持管理費	3,050,000	2,998,380	△ 51,620	データベースサーバー保守・管理費 888,800 レンタルサーバー利用費 166,660 ホームページ更新・管理費 691,200 データベース事業継続費 1,251,720
4	セミナーシンポジウム	2,700,000	2,370,285	△ 329,715	講師／関係者 謝金・旅費 552,600 会場費 1,005,546 印刷費 790,775 会議費 21,364
5	LCA表彰	2,000,000	2,196,936	196,936	委員会、審査関係費 460,620 表彰式、講演会関係費 1,736,316
6	広報誌発行費	200,000	166,000	△ 34,000	原稿料 166,000 翻訳費 0
7	国際対応活動費	2,030,000	2,029,437	△ 563	海外調査 999,437 TC207協力金（H30年度分） 30,000 エコバランス国際会議 協賛金 1,000,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	0	日本LCA学会（H30年分） 100,000
9	事務局人件費	2,500,000	2,600,000	100,000	事業支出額の約20% 2,600,000
10	事務局経費	550,000	512,914	△ 37,086	事務局人件費の約15% 390,000 実費経費 122,914
<b>当期支出合計(B)</b>		<b>16,480,000</b>	<b>16,170,435</b>	<b>△ 309,565</b>	
<b>当期収支差額 (A-B)</b>		<b>△ 2,446,000</b>	<b>△ 2,125,278</b>	<b>320,722</b>	
<b>前年度繰越金 (C)</b>		<b>4,774,644</b>	<b>4,774,644</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越収支差額 (A-B+C)</b>		<b>2,328,644</b>	<b>2,649,366</b>	<b>320,722</b>	

2 特別収支（システム更新積立金）					(単位：円)
	科目	H30年度 予算額	H30年度 決算額	比較増減	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
		0	0	0	
<b>当期収入合計(D)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
		0	0	0	
<b>当期支出合計(E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>当期収支差額 (D-E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>前年度繰越金 (F)</b>		<b>9,768,700</b>	<b>9,768,700</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越収支差額 (D-E+F)</b>		<b>9,768,700</b>	<b>9,768,700</b>	<b>0</b>	

## 会計監査確認書

平成30年度LCA日本フォーラム会計書類を監査し、その正当なることを確認致しました。

平成31年4月17日

監事

東京都中央区日本橋本町1丁目9番4号  
一般社団法人セメント協会  
生産・環境部門  
リーダー

細川 浩之



監事

東京都大田区下丸子3丁目30番2号  
キャノン株式会社  
環境統括センター 環境推進部  
製品環境推進課長

大淵 善道





## 2019年度活動計画書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

環境マネジメントに関する国際規格化動向、欧州委員会における環境フットプリントやGHGプロトコルにおけるScope3の進展、あるいは、自治体・工業会におけるGHG排出量の削減貢献量の取り組みなど、サプライチェーン全体を通じたLCAの活用が国内外に広がっている。

こうした中、LCA日本フォーラムは、平成10年からの第1期LCAプロジェクト以来の成果を広く我が国産業界に一元的に公開し続け、LCAの発展に欠くことのできないLCAデータベース(JLCA-DB)の利便性向上を図り、今後の在り方について広く議論を行い、さらなる発展を期すこととする。

その他、今年度も下記を柱とした活動を行う。

- ① LCAデータベース(JLCA-DB)運営管理及び積極的活用の促進
- ② LCA日本フォーラム表彰の実施
- ③ 情報発信活動としてセミナーの開催とニュースレターの発行
- ④ LCAと環境効率の研究会活動とLCA研修事業の実施
- ⑤ 国際動向の積極的な調査

### 1. 事業内容

#### 1-1. JLCA-DB活用促進及び運営管理に係わる活動の実施

- ① 平成27年度に実施した「データベース整備事業」の成果である「LCA連結データ」について、引続き問合せ対応等のフォローアップを行うのは勿論のこと、今後さらなる活用を促すため、工業会データを見直し連結データの公開を行う意思のある工業会に向け、連結作業を円滑に進めるための支援事業を実施する。(支援業務の委託先:産業技術総合研究所および産業環境管理協会)
- ② 国際的なデータベースネットワークの動向について、経済産業省事業や産業技術総合研究所のデータベース(IDEA)事業への協力と情報を収集し、フォーラムとしての対応を継続的に検討する。The Global LCA Data Access(GLAD) NetworkにJLCAのデータを1~2つ掲載し、JLCA-DBを国際的に紹介していく試行を行う。(作業委託先:TCO2株式会社)

## 1-2. LCA表彰事業活動の実施

- ① 日本国内のLCAと環境効率に係わる優れた活動および製品・サービスを表彰する。  
「第16回LCA日本フォーラム表彰」 経済産業省産業技術環境局長賞  
LCA日本フォーラム会長賞  
LCA日本フォーラム奨励賞  
功労賞
- ② 表彰式：受賞者の表彰式と表彰記念講演会を実施する。(2020年2月)

## 1-3. 情報発信活動の実施

- ① LCAと環境効率に関連したセミナーを4回程度開催する。
  - 総会併設セミナー：LIME3活用検討研究会 成果発表(2019年6月11日)
  - フォーラム主催セミナー：海洋プラスチック問題とLCAに関するセミナー(2019年9月)
  - 日本LCA学会共催セミナー
  - フォーラム主催セミナー：国際動向に関するセミナー(2019年11月)
  - LCA表彰記念セミナー：受賞者より講演(2020年2月)
- ② LCAと環境効率に関連した情報掲載の「フォーラムニュース」を2～3刊程度発刊する。
- ③ ホームページのコンテンツの充実を図る。
- ④ メールマガジン等により、LCAと環境効率に関連する情報を提供する。

## 1-4. 研究会活動の実施

- ① 平成30年度に引続き、下記の研究会活動の継続を実施する。
  - 「ICTとSDGs」研究会
  - 「LIME3活用検討」研究会
- ② 新規1程度の研究会を設置し、研究会WGメンバーを公募する。

## 1-5. LCA研修の実施

LCA実施者の裾野を広げるべく、データベースの継続運営、会員サービスへの強化を含めたフォーラム全体の活性化を目的とし、フォーラム主催のLCA研修(入門コース)を実施する。3つの地域会場にて各1～2回程度開催する。

- ・東京会場(7月12日、11月)
- ・名古屋会場(6月6日、10月)
- ・大阪会場(6月21日、10月)

## 1-6. NETs 研究プロジェクトの実施

国内における NETs 推進の核として、各技術の専門家による検討の場を設け各技術の俯瞰・課題だしを行い、会員からのフィードバックを受け、これをもって日本における NETs の展開および将来の NETs 戦略についての意思決定に資することを目的とし、検討会を 4 回程度、会員向け公開座談会を 1 回程度開催する。

## 1-7. 国際動向調査と国際会議等への協力

- ① 国際動向調査としての国際会議へ専門家を派遣する。
- ② 国際会議、学術会議等への協力 (TC207、日本 LCA 学会等)

## 2. 年間スケジュール予定

### 2-1. 総会/委員会

- ① 通常総会 年1回 (6月11日)
- ② 運営委員会 年1回程度 (5月24日)
- ③ LCA/DB委員会 年1回程度 (4月26日)
- ④ 情報企画委員会 年2回程度 (6月、3月)
- ⑤ 表彰委員会 年1回程度 (12月)
- ⑥ 表彰選考ワーキンググループ 年2回程度(7月、12月)

### 2-2. 情報発信

- ① LCA日本フォーラム表彰 応募期間(8月~11月) 表彰式(2月)
- ② セミナー開催 年4回程度 (6月、9月、11月、2月)
- ③ ニュースレター発刊 年2~3刊程度
- ④ ホームページ更新(ニュース配信随時、コンテンツ改訂等)

## 2019年度LCA日本フォーラム収支予算書

1 一般事業収支				(単位：円)	
	科目	H30年度 予算額	H30年度 決算額	2019年度 予算額	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
1	会費	13,984,000	14,031,000	14,031,000	@ 100,000 円× 18 工業会 I = 1,800,000 @ 400,000 円× 2 工業会 II = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会 III = 600,000 @ 30,000 円× 19 工業会 III = 570,000 @ 80,000 円× 3 団体 = 240,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 81 優先企業A = 4,050,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 26 一般企業A = 2,080,000 @ 50,000 円× 13 一般企業B = 650,000 @ 30,000 円× 47 一般企業C = 1,410,000 @ 30,000 円× 42 大学等 = 1,260,000 @ 13,000 円× 28 個人 = 364,000 @ 7,000 円× 11 LCA学会 = 77,000
	特別DB利用料				
2	セミナー参加費	50,000	14,000	50,000	
3	雑収入	0	157	100	利息 100
4	特別収支から移管	0	0	1,938,700	2.特別収支から移管 1,938,700
<b>当期収入合計(A)</b>		<b>14,034,000</b>	<b>14,045,157</b>	<b>16,019,800</b>	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
1	委員会関係費	350,000	298,059	350,000	委員謝金 100,000 委員旅費 100,000 会場費 100,000 会議費 50,000
2	研究会活動費	3,000,000	2,898,424	3,000,000	研究会活動費 (研究会3件程度) 1,000,000 LCA研修事業 2,000,000
3	システム維持管理費	3,050,000	2,998,380	2,992,340	データベースサーバー保守・管理費 947,440 新データベース・サーバー移設費 300,000 レンタルサーバー利用費 200,000 ホームページ更新・管理費 600,000 連結データベース事業継続費 944,900
4	セミナー・シンポジウム	2,700,000	2,370,285	2,200,000	講師謝金・旅費 700,000 会場費 1,200,000 印刷費 100,000 会議費 200,000
5	LCA表彰費	2,000,000	2,196,936	2,000,000	委員会、審査関係費 500,000 表彰式、講演会関係費 1,500,000
6	広報誌発行費	200,000	166,000	500,000	原稿料・原稿作成費 200,000 翻訳費 300,000
7	国際対応活動費	2,030,000	2,029,437	2,200,000	海外調査 1,000,000 TC207協力金 30,000 エコバランス国際会議協力金 500,000 EcoDesign2019 100,000 GLAD対応費 570,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	100,000	日本LCA学会 100,000
9	特別事業費	0	0	1,500,000	NETs事業 1,500,000
10	事務局人件費	2,500,000	2,600,000	2,900,000	事業支出額の約20% 2,900,000
11	事務局経費	550,000	512,914	635,000	事務局人件費の約15% 435,000 実費経費 200,000
<b>当期支出合計(B)</b>		<b>16,480,000</b>	<b>16,170,435</b>	<b>18,377,340</b>	
<b>当期収支差額 (A-B)</b>		<b>△ 2,446,000</b>	<b>△ 2,125,278</b>	<b>△ 2,357,540</b>	
<b>前年度繰越金 (C)</b>		<b>4,774,644</b>	<b>4,774,644</b>	<b>2,649,366</b>	
<b>次期繰越収支差額 (A-B+C)</b>		<b>2,328,644</b>	<b>2,649,366</b>	<b>291,826</b>	

※2019年10月に消費税が10%になることを前提としている。

2 特別収支 (システム更新積立金)				(単位：円)	
	科目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	2019年度 予算額	
<b>I</b>	<b>収入の部</b>				
	当期収入合計(D)	0	0	0	
<b>II</b>	<b>支出の部</b>				
1	一般事業収支へ移管			1,938,700	1.一般事業収支へ移管 1,938,700
<b>当期支出合計(E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,938,700</b>	
<b>当期収支差額 (D-E)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 1,938,700</b>	
<b>前年度繰越金 (F)</b>		<b>9,768,700</b>	<b>9,768,700</b>	<b>9,768,700</b>	
<b>次期繰越収支差額 (D-E+F)</b>		<b>9,768,700</b>	<b>9,768,700</b>	<b>7,830,000</b>	

## 2019年度LCA日本フォーラム役員

(敬称略)

## 会長:

やまもと りょういち  
山本 良一 東京大学 名誉教授

## 副会長:

いなば あつし  
稲葉 敦 工学院大学 先進工学部 教授

あだち よしひろ  
足立 芳寛 東京工科大学 客員教授

こが たけし  
古賀 剛志 特定非営利活動法人エコデザイン推進機構 理事

いいた ゆうじ  
飯田 祐二 経済産業省 産業技術環境局長

てらし しげき  
寺師 茂樹 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会 委員長  
トヨタ自動車株式会社 取締役・副社長

そだに やすひろ  
曾谷 保博 一般社団法人日本鉄鋼連盟

環境・エネルギー政策委員会 委員長  
JFEスチール株式会社 代表取締役 副社長

みうら けいいち  
三浦 啓一 一般社団法人日本経済団体連合会

環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会 部会長代行  
太平洋セメント株式会社 取締役専務執行役員

## 監事:

ほそかわ ひろゆき  
細川 浩之 一般社団法人セメント協会 生産・環境部門 リーダー

(2019年3月31日まで)

もちづき のりひろ  
望月 規弘 キヤノン株式会社 環境統括センター 主席

(2019年4月1日より)

おおぶち よしみち  
大淵 善道 キヤノン株式会社 環境統括センター  
環境推進部 製品環境推進課長

## 2019年度 LCA日本フォーラム 運営委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	組織名	所属/役職
1	委員長 稲葉 敦	工学院大学	先進工学部 環境化学科 教授
2	副委員長 古賀 剛志	特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構	理事
3	副委員長 伊吹 隆直	一般社団法人日本鉄鋼連盟	技術・環境部 部長
4	副委員長 熊田 輝彦	三菱電機株式会社	環境推進本部 副本部長
5	委員 足立 芳寛	東京工科大学	客員教授
6	委員 平尾 雅彦	東京大学大学院工学系研究科	化学システム工学専攻 教授
7	委員 國部 克彦	神戸大学大学院	経営学研究科 教授
8	委員 松野 泰也	千葉大学大学院工学研究院	都市環境システムコース 教授
9	委員 水谷 広	社会地球化学研究所	主任研究員
10	委員 伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科 教授
11	委員 目黒 雅也	一般社団法人日本自動車工業会	環境統括部 統括部長
12	委員 深野 行義	一般社団法人日本ガス協会	企画ユニット 環境部長
13	委員 筒井 将年	一般社団法人日本自動車部品工業会	技術部 部長
14	委員 並河 治	一般社団法人電子情報技術産業協会	事業推進戦略本部 技術戦略部 環境推進専任部長
15	委員 祖田 敏弘	一般社団法人日本化学工業協会	技術部 部長
16	委員 西尾 健二	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会	環境部 担当部長
17	委員 井上 謙	一般社団法人日本産業機械工業会	産業機械第一部 兼 技術部 部長
18	委員 葉石 善一	一般社団法人日本建設業連合会	常務理事
19	委員 細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門 リーダー
20	委員 松浦 弘之	一般社団法人日本ガス石油機器工業会	事務局長
21	委員 中野 直男	一般社団法人日本アルミニウム協会	理事
22	委員 高寺 雅伸	石油化学工業協会	技術部 担当部長
23	委員 三浦 安史	石油連盟	安全管理部 部長
24	委員 田淵 浩	電気事業連合会	立地環境部 副部長
25	委員 大石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	副会長
26	委員 村上 順二	株式会社日立製作所	サステナビリティ推進本部 環境部 部長代理
27	委員 小林 由典	株式会社東芝	技術・生産統括部 環境推進室 参事
28	委員 石川 鉄二	富士通株式会社	総務・サステナビリティ推進本部 環境デザイン部 部長
29	委員 大淵 善道	キヤノン株式会社	環境統括センター 環境推進部 製品環境推進課長
30	委員 田中 百合子	日本電信電話株式会社	ネットワーク基盤技術研究所 環境基盤プロジェクト 環境アセスメント基盤グループ グループリーダー
31	委員 亀井 明紀	経済産業省 産業技術環境局	環境経済室 室長

## 2019年度 LCA日本フォーラム LCA/DB委員会名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	松野 泰也	千葉大学大学院工学研究院	都市環境システムコース	教授
2 副委員長	磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社	技術総括部	上席主幹
3 委員	原田 幸明	国立研究開発法人物質・材料研究機構	元素戦略材料センター	特命研究員
4 委員	田原 聖隆	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 研究戦略部 連携主幹 安全科学研究部門 IDEA ラボ	ラボ長
5 委員	醍醐 市朗	東京大学大学院工学系研究科	マテリアル工学専攻	特任准教授
6 委員	祖田 敏弘	一般社団法人日本化学工業協会	技術部	部長
7 委員	齋藤 潔	一般社団法人日本電機工業会	環境部	担当次長
8 委員	細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門	リーダー
9 委員	棚橋 昭	株式会社デンソー	安全衛生環境部	部長
10 委員	金子 一彦	株式会社荏原製作所	内部統制・リスク管理統括部 環境推進課	課長
11 委員	高橋 拓二	一般社団法人日本ガス協会	企画ユニット 地球環境グループ	グループマネジャー
12 委員	小安 克幸	一般社団法人日本アルミニウム協会	業務・国際交流担当	主査
13 委員	長縄 肇志	塩ビ工業・環境協会	技術部	部長
14 委員	佐々木 啓	日本鋳業協会	技術部	次長
15 委員	黒田 康英	日本冶金工業株式会社	グループ環境・知的財産部	部長
16 委員	瀧ヶ崎 薫	前田建設工業株式会社	技術研究所	上席研究員

## 2019年度 LCA日本フォーラム情報企画委員会

(順不同・敬称略)

	氏名	組織名	所属	役職
1 委員長	伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科	教授
2 委員	菊池 康紀	東京大学	未来ビジョン研究センター	准教授
3 委員	和泉 昭宏	一般社団法人プラスチック循環利用協会	調査研究部	環境影響評価部長
4 委員	大橋 憲司	株式会社資生堂 (日本LCA学会理事 企画委員会委員長)	サステナビリティ戦略部	シニアスペシャリスト(環境)
5 委員	並河 治	一般社団法人 電子情報技術産業協会	事業推進戦略本部 技術戦略部	環境推進専任部長
6 委員	木村 祐一	株式会社リコー	環境推進本部 社会環境室 企画グループ	スペシャリスト
7 委員	古米 健治	旭化成株式会社	環境安全部 地球環境対策推進グ ループ	グループ長
8 委員	小野 光司	日本生活協同組合連合会	組織推進本部 サステナビリティ推進部	環境担当
9 委員	柴田 あゆみ	大日本印刷株式会社	包装事業部 IPC製品開発本部 開発 製品拡散推進部 価値拡大チーム	
10 委員	小松 郁夫	東洋製罐グループホールディングス株式会社	環境部	ジェネラルマネージャー

## 2019年度 LCA日本フォーラム表彰委員会

(順不同・敬称略)

No		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	足立 芳寛	東京工科大学	客員教授	
2	副委員長	三浦 啓一	太平洋セメント株式会社	取締役専務執行役員	
3	副委員長	内山 洋司	一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 筑波大学	代表理事 会長 名誉教授	
4	委員	池田 三知子	一般社団法人日本経済団体連合会	環境エネルギー本部長	
5	委員	國部 克彦	神戸大学大学院	経営学研究科	教授
6	委員	四竈 廣幸	日刊工業新聞社	取締役 編集局長	
7	委員	大石 美奈子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会		副会長
8	委員	堂脇 清志	東京理科大学	理工学部 経営工学科	教授
9	委員	亀井 明紀	経済産業省 産業技術環境局	環境経済室	室長

## 2019年度 LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

(順不同・敬称略)

No		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	成田 暢彦	愛知学院大学 (前 名古屋産業大学 学部長・教授)	総合政策学部	非常勤講師
2	委員	中嶋 道靖	関西大学	商学部	教授
3	委員	宇郷 良介	湘南工科大学	工学部 人間環境学科	教授
4	委員	芝池 成人	東京工科大学	工学部 機械工学科	教授
5	委員	玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所	安全科学研究部門	副研究部門長
6	委員	根村 玲子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会		環境委員
7	委員	青木 良輔	Office RECHO (元 一般社団法人産業環境管理協会 技術参与)		

## 2019年度LCA日本フォーラム JLCA-DB海外対応ワーキンググループ

(順不同・敬称略)

No		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	齋藤 潔	一般社団法人日本電機工業会	環境部	担当次長
2	委員	磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社	技術総括部	上席主幹
3	委員	棚橋 昭	株式会社デンソー	安全衛生環境部	部長
4	委員	横山 亮	TDK株式会社	サステナビリティ推進本部 安全環境 グループ	課長
5	委員	田原 聖隆	国立研究開発法人産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 研究戦略部 連携主幹 安全科学研究部門 IDEA ラボ	ラボ長
6	委員	古島 康	みずほ情報総研株式会社	環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム	チーフコンサルタント
7	委員	正嶋 宏一	TCO2株式会社		代表取締役



## LCA日本フォーラム規約

(名称)

第1条 本会は、LCA日本フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(目的)

第2条 フォーラムは、我が国におけるLCA情報センターの役割を果たすことを目的として、経済産業省プロジェクトとして構築されたLCAデータベース（以下、「データベース」という。）の管理運営を行うとともに、学際的、業際的視点に立ち、ライフサイクルアセスメント（以下「LCA」という。）の研究の成果および情報の集積、LCA関係者間の交流促進、並びにLCAの啓発・普及活動を推進することとする。

(事業活動)

第3条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) LCAデータベースの維持管理の運営
- (2) 会員へのLCA関連情報提供
- (3) 会員間の交流活動としてのセミナー等の開催および国際交流の実施
- (4) LCA研究の場の提供およびLCA標準化への貢献
- (5) 前各号のほか、目的達成に必要な事業

(会員)

第4条 フォーラムの会員は、工業会Ⅰ会員、工業会Ⅱ会員、工業会Ⅲ会員、団体等会員、学術組織会員、優先企業会員、工業会Ⅱ登録企業会員、一般企業会員、大学研究室等会員および個人会員とする。

- 2 工業会Ⅰ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力し、利用経費部分については工業会会員企業の自由意思に任せる工業会。
- 3 工業会Ⅱ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力するとともに、当該工業会会員企業のデータベース利用経費部分について工業会として協力する工業会。
- 4 工業会Ⅲ会員は、データベース構築に協力した工業会の内、年間事業規模が別に定める額以下の工業会であって、基本経費部分に協力する工業会。
- 5 団体等会員は、データベース構築に参画しなかった工業会、国公私立の研究機関等であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 6 学術組織会員は、フォーラムの目的および活動に賛同し、基本経費部分に協力する組織。
- 7 優先企業会員は、工業会Ⅰ会員の会員企業であって、データベース利用を行う企業。
- 8 工業会Ⅱ登録企業会員は、工業会Ⅱ会員により登録された企業であって、データベース利用を行う企業。
- 9 一般企業会員は、工業会Ⅰ会員および同Ⅱ会員いずれの工業会の会員企業でなく、基本経費部分に協力するとともにデータベース利用を行う企業。
- 10 大学研究室等会員は、大学の研究室およびそれに準じるグループ又は非営利組織であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 11 個人会員は、いずれの組織に属さない個人であって、基本経費部分に協力するとともに、データベース利用を行う者。

(会費)

第5条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(入退会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を会長に提出し、運営委員会の承認を得なければならない。

- 2 会員がフォーラムを退会するときは、別に定める退会届を会長に提出しなければならない。

3 会員が次の各号の一つに該当するときは、退会したものとします。

- (1) 法人又は団体が解散又は破産したとき。
- (2) 死亡又は失踪宣告を受けたとき。
- (3) 会費を納入せず、督促後6ヶ月を経ても納入しないとき。

(除名)

第7条 会員が別に定めるLCAデータベース運用規則又は会費規則に違反したときは、運営委員会の3分の2以上の議決をもって除名することができる。

(会長、副会長および監事)

第8条 フォーラムに次の役員を置く。

- (1) 会長1名および副会長若干名
- (2) 監事2名
- 2 会長は、フォーラムを代表し、会務を統轄する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を代行する。
- 4 監事は、フォーラムの収支決算書の監査を行う。
- 5 会長、副会長および監事は、総会において選任する。
- 6 会長、副会長および監事の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(総会)

第9条 総会は会員をもって構成する。

- 2 総会は、会長、副会長および監事の選任、事業計画、予算・決算の承認、その他重要事項を審議し、決定する。
- 3 総会は、毎年1回以上開催する。
- 4 総会は、構成員の2分の1以上の出席をもって構成し、出席者の過半数の同意で議決するものとする。

(運営委員会)

第10条 フォーラムに運営委員会を置き、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 委員 20名程度
- 2 運営委員会の委員長、副委員長および委員は、会員の内から会長が選任する。
- 3 運営委員会は、フォーラムの活動に関し必要な事項を処理し、委員会に付議する事項を審議する。
- 4 運営委員会は、運営委員長が必要と認めた場合開催する。
- 5 第8条第6項の規定およびただし書きは、運営委員会委員長、副委員長および委員の任期に準用する。
- 6 第9条第4項の規定は、運営委員会の定足数及び議決に準用する。

(部会および委員会)

第11条 運営委員会の議決により、フォーラムに専門部会および専門委員会を置くことができる。

(事務局)

第12条 フォーラムの事務局は、一般社団法人産業環境管理協会に置く。

(規約の改正)

第13条 本規約の改正は、総会の議決により行う。

## 附 則

1. この規約は、平成7年10月25日より施行する。
2. この規約の改正は、平成16年4月1日より施行する。
3. この規約の改正は、平成17年4月1日より施行する。